

全国学力・学習状況調査の活用について ～児童生徒の実態把握と 保護者・地域と連携した学力向上の手立て～

I 全国学力学習状況調査の概要について

II 川崎市教育委員会の取組

III 各学校の取組

I 基本的な考え方

II 保護者への結果報告書例

III 個人票の取扱いについて

IV わかる授業の取組

参考 川崎市学習状況調査について

I 全国学力学習状況調査の概要について

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらにそのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校6年生、中学校3年生の全児童生徒

3 実施日

平成26年4月22日（火）

4 調査事項

（1）児童生徒に対する調査

A 教科に関する調査

小学校・・・国語、算数 中学校・・・国語、数学

- ・それぞれの学年・教科に関して、主として「知識」に関する問題（A問題）、主として「活用」に関する問題（B問題）

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

（2）学校に対する調査

- ・学校における指導方法に関する取組や学校における人的、物的な教育条件の整備状況等に関する質問紙調査

5 調査結果等の提供

- ・市教育委員会には、市全体の状況、及び各学校の状況が提供される。
- ・各学校には、当該学校全体の状況、各学級及び各児童生徒に関する調査結果及び個人票が提供される。
- ・各学校への調査結果の提供日は、平成26年度については8月26日の予定。

II 川崎市教育委員会の取組

1 概要版（参考資料1）の公表（平成26年8月25日予定）

市全体の各教科の平均正答率、良好であった設問、課題となっている設問
質問紙調査の抜粋

2 全国学力・学習状況調査結果について（別添資料2）の公表（平成26年度は9月末予定）

3 全国学力・学習状況調査報告書作成に関する研修会の実施（平成26年9月1日予定）

- ・各学校が作成する全国学力・学習状況調査結果の報告書の、基本的な考え方、提供する内容、数値目標の設定等、作成上の留意点等についての研修を実施する。

4 全国学力・学習状況調査に関わる授業改善についての説明会（平成26年10月31日予定）

- ・全国学力・学習状況調査を基にした授業改善について、国立教育政策研究所学力調査官を講師に招き、研修を実施する。

Ⅲ 各学校の取組

Ⅰ 基本的な考え方

1 趣 旨

- (1) 全国学力・学習状況調査の調査結果は、各学校の学力や学習状況を客観的に示したものである。したがって、調査結果を地域・保護者に示すことは説明責任を果たすとともに、児童生徒の学力向上に向けた取組を学校と地域・保護者が一体となって推進することにつながるものである。（実施要領より）
- (2) 全国学力・学習状況調査の調査結果の提示にあたっては、各学校が自校の特色や教育目標等に照らし、教育指導の改善に役立てられるよう、内容や方法を設定する。

2 全国学力・学習状況調査を活用した学力の把握について

全国学力・学習状況調査では、「教科に関する調査」、「児童生徒に対する質問紙調査」、「学校に対する質問紙調査」の3つから、児童生徒の学力や学習の状況を調査している。

「学力」については、学力の3要素である、「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学習意欲」の視点でとらえることが大切である。それとともに、全国学力・学習状況調査の報告書には、「言語活動・読解力」「学習習慣」「指導方法」「学校の授業以外での学習」「生活習慣」「自尊感情」「規範意識」等と学力との関連も示されている。このことから、各学校が学力向上への取組を考える上では、教科調査の正答率等だけでなく、質問紙調査のデータ等も踏まえながら、検討していくことが必要である。

また、児童生徒一人一人に渡される個人票には、教科調査の各設問についての本人の結果と全国の正答率、分布図が示されており、本人の学力の状況を把握する資料となる。

なお、実施要領にも示されているとおり、調査によって測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることについて、保護者・地域に十分、理解が得られるよう努める必要がある。

3 報告書の内容について

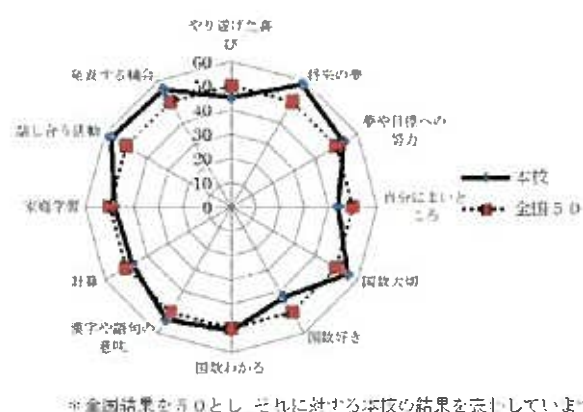
(1) 調査結果の概要

各教科の調査、質問紙調査の調査結果の概要を示す。各学校ごとに児童生徒の学力向上のために大切にしていきたい項目等を取り上げ、地域や保護者にわかりやすく図で示す方法もある。

(2) 調査結果の内容

学校の取組の成果や課題としてとらえられる数値を提示する。その際、教科と質問紙の調査結果の双方を、各学校の状況に照らしバランスよく提示する。

教科の調査については、各設問ごと、領域ごと、問題形式ごと等の正答率や無解答率について数値を示す。質問紙調査については、各設問や分類（学習習慣、規範意識、等々）ごとの回答状況を数値で示す。



(3) 調査結果の分析

(2) で示した内容について、学校としてのとらえ方（良い状況、改善を要する状況）や要因等について示す。

(4) 今後の取組

課題として取り上げた内容について、学力向上に向けた取組や分かる授業づくり等の改善策を示し、次年度に向けて目標とする数値を示す。

4 分析の方法について

(1) 各教科の調査

●正答率

80%以上（記述の問題では70%）・・・「良い状況と考えている」

50%未満、無解答率10%以上・・・「課題としてとらえている」

※数値が上記に満たなくても、「昨年度との比較」や「全国の正答率」との比較から「改善されてきている」「全国平均正答率は上回っている」といった表現ができる。

●度数分布表・・・特徴を述べる

「正答数が〇〇問の周辺に、分布が多く見られます」

(2) 児童生徒質問紙

・「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」80%以上

「良い状況ととらえている」「日頃の～の指導の成果ととらえている」

・「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」60%未満

「課題として受け止めている」「今後、指導の改善が求められている」

※数値が上記を満たさなくても、「昨年度との比較」や「全国の状況との比較」から、「改善されてきている」「全国基準は上回っている」といった表現ができる。

※「当てはまる」のみの数値でも、「昨年度との比較」や「全国の状況との比較」から、「良い状況ととらえている」「改善してきている」といった表現ができる。

5 子どもが「わかった」ことが実感できる授業の視点

平成25年度の全国学力・学習状況調査報告書「クロス集計」には、「国語、算数・数学の授業の内容がよく分かりますか」という質問の回答状況と教科調査の正答率の相関が明らかであることが数値によって示されている。教育委員会としては、この点を重視し児童生徒にとってわかりやすい授業を展開することは、学力向上に向けて重要な要素であると考えている。

各学校では、この点を踏まえ「国語、算数・数学の授業の内容がよく分かりますか」の質問に対する回答状況と分析、考察等について提示する。（Ⅵ「わかる授業の取組」参照）

6 数値目標の設定について

(1) 保護者・地域に示す数値の例

- ・教科の調査の領域ごとや評価の観点ごと、問題形式ごとの平均正答率や無解答率
- ・学習意欲に関する質問「勉強が好き」「勉強が大切」「将来役立つ」「諦めずに考える」などの割合
- ・将来の夢や目標を持っている割合

- ・自分にはよいところがあると思う割合
- ・学校が楽しいと思う割合
- ・家庭学習に関する質問「家で予習をしている」「復習をしている」などの割合

(2) 数値の示し方

- ①単純に目標とする数値を示す。
「〇〇%をめざします。△△%アップをめざします。」というように数値を設定する。
- ②経年変化で数値を示す。
「今年度以上をめざします。」というような経年比較的に数値を設定する。
- ③学校の状況把握の段階で数値を示し、言葉による目標を設定する。
「今年度は、〇〇について、□□%という結果であり、課題としてとらえております。△△の改善を図り、児童生徒から◎◎といった声が開かれるよう努めます。」というような設定の仕方が考えられる。

7 情報提示の時期

- 調査結果が提供された後、前期末（10月上旬）を目途に、分析結果及び今後の取組について提示する。
- 提示した今後の取組を推進し、川崎市学習状況調査の調査結果や学校評価の質問項目等も活用しながら取組の検証をする。

8 個人票の取り扱いについて

個人票は前期末頃に実施される面談や教育相談等の機会を通して児童生徒・保護者に確実に渡すこととする。その際、一人一人の学力向上につながるよう、個人票の見方とともに調査結果をもとにした学習方法の改善等についても児童生徒・保護者と共通理解する必要がある。

9 教育委員会の取組（区教育担当による支援・指導）

区教育担当は、学校訪問等を通して各学校の教育活動についての状況を把握し、支援・指導を行っている。区教育担当は、このような日頃の取組を生かし、各学校が全国学力・学習状況調査結果の報告書を作成するにあたって、適切に助言する。報告書には、各学校を支援・指導している区教育担当としての立場から、各学校の日頃の取組の成果や課題についてのコメントを記載する。

Ⅱ（１） 結果報告書 学校教育目標等に即した分析

平成 26 年 10 月 ○ 日

保護者の皆様

川崎市立○○中学校

校長 △△ □□

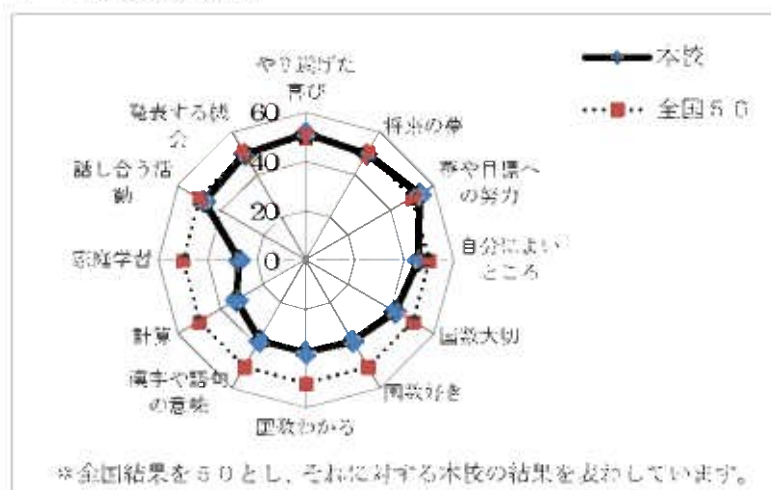
平成 26 年度 全国学力・学習状況調査の結果概要と ○○中学校における今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

4 月 22 日（火）に 3 年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の各学校の調査結果が配布されました。調査結果をもとに、本校の学校教育目標ならびに学校経営方針を踏まえ、学校づくりに生かす視点から分析を行い、今後の取組について報告いたします。

なお、本調査によって測定できるのは学力の特定の一部であり、学校の教育活動の一側面であることが調査の実施要領に示されておりま。したがって、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えいただきたいと存じます。今後も生徒一人一人に寄り添った教育活動の推進に努めてまいりたいと考えております。

1 調査結果概要



○豊かな心をもち、主体的に活動できる力に関わる設問についての本校の生徒の回答状況は、全国基準とほぼ同程度でした。

○基礎的・基本的な知識・技能の習得について、国語・数学の調査結果や生徒質問紙の回答状況から、課題として受け止めています。

○生徒主体の授業づくりについては全国の基準値と同程度の状況となっております。

2 学校教育目標等の実現に向けた調査結果を生かした今後の取組

成果 課題 分析 今後の取組

※ 示している数値・・・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

（１） 学校教育目標「豊かな心をもち、主体的に活動できる力の育成」

- ①物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある。96.1%
- ②将来の夢を持っている。77.2%
- ③将来の夢や目標を実現するために努力している。70.2%

①自分にはよいところがある。
58.2%

①本校では、授業や各行事など、様々な場面で生徒主体の活動になることを重視しております。その成果が表れている数値ととらえております。

②③「将来に関する意識」については、肯定的な回答が70%台ですが、全国の状況を上回っております。計画的なキャリア教育推進の成果ととらえております。

①自己肯定感の回答状況については課題のある結果ととらえております。授業や行事等での達成感がその後の自信につながるよう、これまで以上に生徒主体の活動の場を設けるとともに、声かけ等の支援に努めます。

【次年度への取組】 「自分にはよいところがある」の数値、70%以上をめざし、生徒が自分に自信を持てるよう、生徒一人一人が活躍できる場面作りに努めます。

(2) 学校経営方針「基礎的・基本的な知識・技能の習得」

①勉強は大切である。

国 83.9%、数 71.7%。

②数学ができるようになりたい。92.2%

③分からないことがあるとその場で先生に聞く。29.5%
(全国 12.1%)

①国語 漢字の読み書き、語句の意味等の問題(A[8])の平均正答率が64.9%である。

②数学 正負の数、文字式(A[1]~[3])等、基本的な計算問題等の平均正答率が55.1%である。

③家で、学校の予習、復習をしているはそれぞれ16.9%、20.2%である。

①②「学習の大切さ」や「できるようになりたい」といった学習に対する意識は良い状況と考えております。

③「分からないところがあると先生に聞く」という生徒の割合が高く、授業中の生徒と教員の関係のよさがうかがえます。

①②本校では、それぞれの教科で基礎的・基本的な内容が確実に定着できる授業づくりに重点を置いております。今回の調査結果からは、国語の基本的な語句に関する問題、数学の基本的な計算力に関する問題の正答率が全国の状況よりも低く、課題としてとらえております。基礎的・基本的な内容が確実に身に付けられるよう、授業では繰り返し学習の充実等、また朝の時間を使った基礎的・基本的な内容のドリル学習等に取り組みます。

③家庭での学習についても、全国の状況と比べると、予習復習を行っている生徒が少ない状況となっております。宿題の内容や取り組み方の指導に努めてまいります。ご家庭におきましても、ご協力いただけますようお願いいたします。

【次年度への取組】・基礎的・基本的な知識・技能の定着に関する問題の正答率が今年度よりも5%以上向上できるよう指導の工夫に努めます。

・現在、家庭と連携しながら進めている家庭学習の充実に向けた取組をさらに推進し、「家で学校の予習・復習をしている」と回答する生徒がそれぞれ5%ずつ増えることをめざします。

(3) 学校経営方針「生徒主体の授業づくり」

①授業で、生徒間で話し合う活動が行われている。76.0%

②普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。74.1%

①国語の授業の内容がよく分かる。64.3%

②数学の授業の内容がよく分かる。53.1%

①②「普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う」「普段の授業では、生徒の間で話し合い活動をよく行っていると思う」と回答した生徒の割合から、学校が生徒主体の授業づくりをめざした取組の成果が表れていると考えております。

①②「授業の内容がよく分かる」についての回答状況には課題が見られます。授業の初めにその授業で学習することのめあてを明確にしたり、授業の終わりに学習したことを振り返る時間をとったりすることで、生徒にとって授業がより分かりやすいものになるよう努めます。

【次年度への取組】子どもたちが「分かった」ことが実感できる授業づくりに努め、「数学の授業の内容がよく分かる」について55%をめざしたいと考えています。

〇〇中学校では、学習に苦手意識をもつ子ども達のために、授業者以外の教員が授業へ入り、学習のサポートを行う体制を整えております。この取組によって、子ども達と先生方との信頼関係が構築され、一人ひとりの学習に取り組む眼差しは、年々輝きを増してきています。

生徒会を軸とした自主活動に重きを置く学校行事等の運営も、子ども達に達成感を与え、学校生活への期待を大きくしているものと考えています。

教育委員会 〇〇区・教育担当

Ⅱ（２） 結果報告書 教科の調査を主にした分析

平成 26 年 10 月 ○ 日

保護者の皆様

川崎市立○○小学校

校長 △△ □□

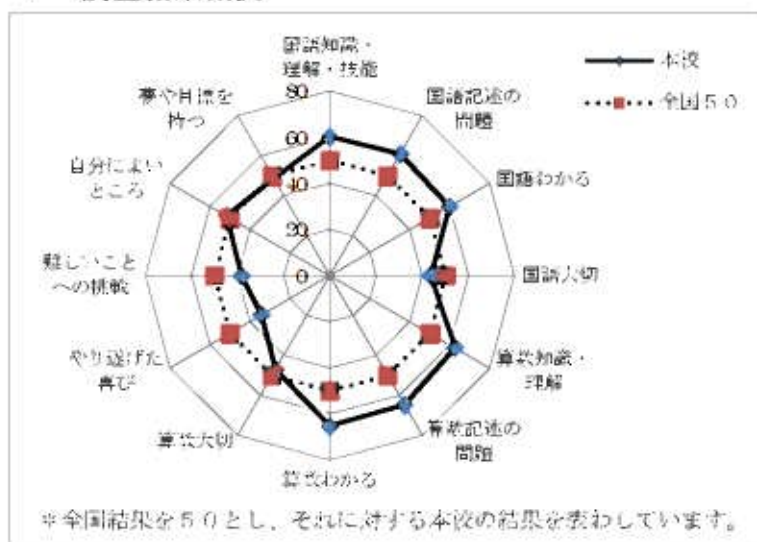
平成 26 年度 全国学力・学習状況調査の結果概要と ○○小学校における今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

4 月 22 日（火）に 6 年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の各学校の調査結果が配布されました。調査結果をもとに、本校の学校教育目標ならびに学校経営方針を踏まえ、学校づくりに生かす視点から分析を行い、今後の取組について報告いたします。

なお、本調査によって測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校の教育活動の一側面であることが調査の実施要領に示されておりま。したがって、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えいただきたいと存じます。

1 調査結果概要



○教科の調査については、国語・算数ともに、基礎的・基本的な問題、記述式の問題とともに、正答率が全国平均を上回っております。

○教科に対する意識については、「授業がわかる」は良い状況ですが、「大切である」については課題となっております。

○意識調査については自己肯定感や将来に関することについては全国と同様の状況ですが、成就感や挑戦心については、全国の状況を下回っています。

2 調査結果をもとにした今後の取組

成果 課題 分析 今後の取組

※ 示している数値・・・「当てはまる」の数値。（ ）は全国の数値

（１） 国語の調査結果

- ①知識・理解・技能の平均正答率
72.9% (62.6%)
- ②記述式の平均正答率
53.4% (42.5%)
- ③国語の授業の内容がよく分かる
43.1% (33.3%)

- ❶国語の勉強は大切である
56.9% (63.1%)

- ① 漢字の読み書きや語の意味、接続語の使い方等、基礎的・基本的な内容の定着は良好な状況ととらえています。
- ② 記述式の問題 2 問の平均正答率は 53.4% ですが、全国の平均正答率を 10% 程度上回っております。
- ③ 「国語の授業の内容がよくわかる」の割合は 43.1% で、「どちらかといえば、当てはまる」もあわせると 84.5% で良好な状況ととらえています。
- ❶ 「国語の勉強が大切である」と回答した割合は全国の状況を下回っております。国語の大切さが感じられる授業作りを進めていく必要があります。

【次年度への取組】 「国語の勉強は大切である」(❶)と感じる児童の数値、60%以上をめざし、児童が主体的に学習に取り組めるよう、授業の工夫を図ります。

(2) 算数の調査結果

- ①知識・理解の平均正答率
83.2%(70.5%)
- ②記述式の平均正答率
57.9%(43.2%)
- ③算数の授業の内容がよく分かる
60.3%(45.2%)

- ❶解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える
34.5%(42.7%)

- ① 概数や余りのある除法、面積の求め方、基礎的・基本的な内容の定着は良好な状況ととらえています。
- ② 記述式の問題5問の平均正答率は57.9%で、全国の平均正答率を大きく上回っております。
- ③ 「算数の授業がよく分かる」と回答した児童の割合も全国の状況と比較すると良い状況と考えております。
- ❶ 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」と回答した生徒は34.5%で、課題としてとらえております。学習にねばり強く取り組む態度を育成するために、発展的な問題に友達と協力しながら解決していくような授業展開を設定していきます。

【次年度への取組】・一人一人の児童に目を向けた授業作りを推進し「算数の授業がよくわかる」(③)について今年度以上の数値をめざします。

・協働的な学習を重視した授業づくりに取り組み、「諦めずにいろいろな方法を考える」(❶)について、5%以上向上することをめざします。

(3) 質問紙調査

- ①自分にはよいところがある
36.2%(34.5%)
- ②将来の夢や目標を持っている
70.7%(72.1%)
- ③普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている
51.7%(46.0%)

- ❶物事をやり遂げて、うれしかったことがある 55.2(71.0%)
- ❷難しいことでも、失敗を恐れず挑戦する 12.1%(23.8%)
- ❸普段の授業で、友達と話し合う活動をよく行っている 22.4%(37.6%)

① ❶❷ 自尊感情

「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合は、「どちらかといえば当てはまる」まで含めると、79.3%であり、全国の状況とはほぼ同程度となっています。しかし、達成感(❶)、挑戦心(❷)については、課題としてとらえております。授業においても、達成した喜びが感じられる指導、挑戦することのすばらしさがわかる指導に努めてまいります。

② 将来に関する意識

「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童の割合は「どちらかといえば当てはまる」まで含めると90%を超えており、良好な状況と考えています。

③ ❸ 授業改善にかかわること

普段の授業で、児童が自分の考えを発表する機会については良好な状況ととらえておりますが、友達と話し合う活動については改善が必要であると考えております。

【次年度への取組】・授業や行事等の機会を通して、挑戦することのすばらしさや達成感を味わわせ、❶❷の数値が今年度よりも5%向上することをめざします。

・授業に話し合い活動を取り入れ❸の数値が10%向上することをめざします。

教育委員会から

〇〇小学校は、「子どもたちのわかる喜びを大切にした授業」を推進し、その成果が子どもたちの学力向上へとつながってきました。学級活動や学校行事などでは、子どもたちが自信をもって活動できる場を増やしており、夢や目標を持って楽しく生き生きと学校生活を送っている姿が見られます。

〇〇区・教育担当

Ⅱ（３） 結果報告書 経年変化による分析

平成 26 年 10 月 ○ 日

保護者の皆様

川崎市立○○中学校

校長 △△ □□

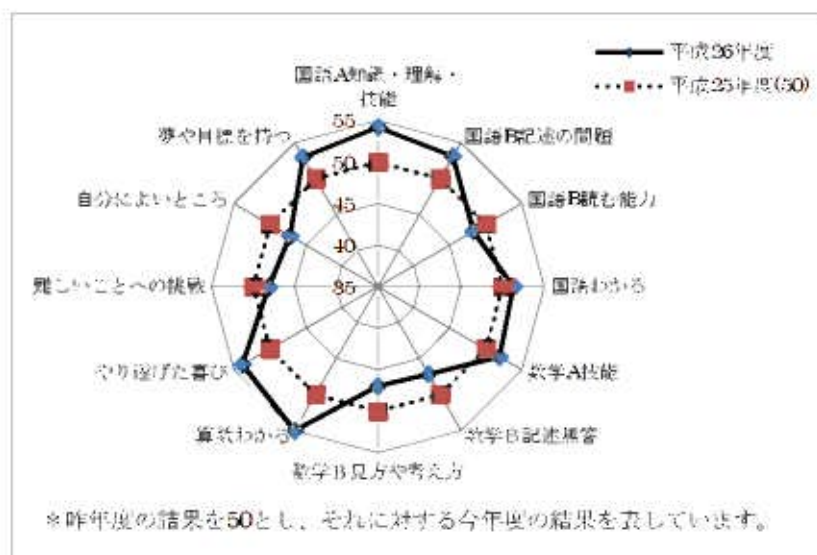
平成 26 年度 全国学力・学習状況調査の結果概要と ○○中学校における今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

4 月 22 日（火）に 3 年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の各学校の調査結果が配布されました。調査結果をもとに、本校の学校教育目標ならびに学校経営方針を踏まえ、学校づくりに生かす視点から分析を行い、今後の取組について報告いたします。

なお、本調査によって測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校の教育活動の一側面であることが調査の実施要領に示されております。したがって、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えいただきたいと存じます。

1 調査結果概要



○国語、数学ともに、基礎的・基本的な内容の定着をみる問題、記述式の問題ともに、昨年度を上回る結果となっております。

○国語の「読む能力」、数学の「数学的な見方や考え方」をみる問題については、昨年度を下回る結果となっております。

○意識調査については、達成感や将来に関することについては、向上してきていますが、自己肯定感、挑戦心は昨年度を下回る結果となっております。

2 調査結果をもとにした今後の取組

【昨年度より向上 ☐ 下降 ☐】

分析 ☐

今後の取組 ☐

※ 数値…「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の合計値、（ ）は昨年度との比較値

（１） 国語の調査結果

- ①知識・理解・技能の平均正答率
76.6% (+4.2%)
- ②記述式の平均正答率
64.6% (+3.1%)
- ③国語の授業の内容がよく分かる
72.1% (+1.3%)

- ④読む能力
69.5% (-1.7%)

- ①漢字の読み書きや語句の意味の理解等、基礎的・基本的な内容については昨年度よりも向上しています。
- ②記述式の問題 3 問の平均正答率も昨年度を 3.1% 上回っております。
- ③「国語の授業内容がよく分かる」と回答した割合が若干増えてきています。生徒主体の授業づくりに取り組んでいる成果と考えております。
- ④読む能力については昨年度をやや下回っております。文章の内容をしっかりと理解しながら読む学習活動の充実に取り組み、改善を図ります。

【次年度への取組】 「国語の授業がよく分かる」(③)の割合が75%以上をめざし、生徒主体の授業づくりにこれまで以上に努めます。

(2) 数学の調査結果

①数学的な技能の平均正答率

70.1% (+1.9%)

②数学の授業の内容がよく分かる

81.0% (+5.0%)

①記述式7問の平均無解答率

32.1% (+1.9%)

②数学的な見方や考え方の問題の平均正答率

37.2% (-3.0%)

①正負の数、文字式、方程式等の計算技能、空間図形の感覚、関数の式やグラフ、確率等の基礎的・基本的な内容の定着が図られてきているととらえております。

②「数学の授業がよく分かる」と回答した生徒の割合も増加してきております。全国との状況と比較しても10%以上高い数値となっております。

①記述式の無解答率が3割を超え、課題としてとらえております。事柄の特徴を説明したり、成り立つ理由を説明したりするなど、自分の考えを表現する学習を授業の中に取り入れ、改善を図る必要があります。

②数学的な見方や考え方に関する問題についても、正答率が低くなっております。生徒が自分で考えたり、グループで意見交換をする場の設定をしたりするなどの、授業改善を図ります。

【次年度への取組】数学の授業において、生徒が自分で考え、自分の考えを書いたり発言したりする機会を増やし、記述式の問題の平均無解答率を5%以上減らすこと、数学的な見方や考え方に関する問題の平均正答率を5%以上改善することをめざします。

(3) 質問紙調査

①物事をやり遂げて、うれしかったことがある。

92.1% (+3.8%)

②将来の夢や目標を持っている。

71.1% (+3.0%)

①難しいことでも、失敗を恐れず挑戦する

63.1% (-1.9%)

②自分には、よいところがある

67.4% (-2.8%)

「自尊感情」

①「物事をやり遂げて、うれしかった」と回答した割合は9割を超えております。行事等の生徒主体の活動の成果と考えられ引き締め取り組んでまいります。

①②「失敗を恐れずに挑戦する」といった意識や、「自分にはよいところがある」といった自分への自信については、昨年度よりも数値が下がっており、全国との状況と比較しても低い状況です。生徒が自信を持って生き抜いていく力を育てるような指導の充実に努めます。

「将来に関する意識」

②「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合は7割を超えております。生徒が夢や目標を持ち続けられるよう、キャリア教育の充実にさらに努めます。

【次年度への取組】・授業や行事等の機会を通して、困難に挑戦する場を設け、挑戦することの意義や自分への自信を感じ、①②の数値が今年度よりも5%向上することをめざします。

教育委員会より

〇〇中学校では、行事や部活動などにおいて、生徒の活躍の場を増やし、自己有用感を高める取組を行っている様子を拝見しております。今年度は「授業力向上」についての研究に全職員で取り組んでおり、「わかる授業」を推進することで、昨年度より、授業がわかる生徒が増え、成果として表れています。

〇〇区・教育担当

Ⅱ（４）結果報告書 調査毎の分析

保護者の皆様

平成26年10月〇日

川崎市立〇〇小学校
校長 〇〇 〇〇

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果概要と 今後の〇〇小学校における学力向上の取組について

日頃より本校の教育活動に御理解と御協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、今年度4月に6年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の本校の調査結果及び今後の本校の取組について報告いたします。

調査結果を踏まえながら、児童一人ひとりの学習改善や主体的な学習態度の育成等につなげてまいりたいと考えております。

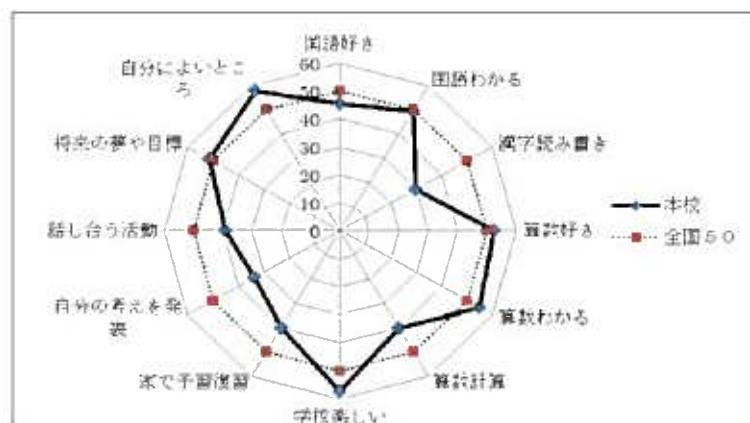
なお、本調査によって測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一面であることが調査の実施要領にも示されております。したがって、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標とお考えいただきたいと思います。

地域・保護者の皆様には、本調査の趣旨をご理解いただきますようお願いいたします。

全国学力・学習状況調査の概要（文部科学省資料より）

- | | |
|--------|--|
| ○調査実施日 | 平成26年4月22日（火） |
| ○調査対象 | 国・公・私立学校の小学校第6学年、原則として全児童 |
| ○調査内容 | ①教科に関する調査（国語、算数）
・主として「知識」に関する問題（A）
・主として「活用」に関する問題（B）
②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査 |

1 本校の調査結果の全体的な概要



*全国結果を50とし、それに対する本校の結果を表わしています。

○教科に対する意識「好き」「分かる」については、算数は全国より、よい状況といえますが、国語は課題があります。

○「自分によいところがある」「将来の夢や目標がある」といった自尊感情や、児童が「学校が楽しい」といった学校生活については、よい状況といえます。

○漢字の読み書きや計算等、基本的な知識・技能の習得に課題が見られ、改善の必要があります。

○授業の中で「話し合う活動」や「考えを発表する機会」などを取り入れることについては課題があり、改善していく必要があります。

2 教科に関する調査結果の概要 〈本校平均正答（回答）率〉

よい状況と考えられる内容（☆） 指導・改善が必要と考えられる内容（★）

国語A ★漢字を書く問題について、課題があります。（「壊く」〈17.1％〉、「停車する」〈15.7％〉、「設ける」〈29.5％〉）

☆ことわざの意味の理解、接続語の働きについては、比較的良好な状況です。（「急がば回れ」〈85.4％〉、接続語の働き〈75.1％〉）

国語B ★「活用」に関する問題では無解答率が20％を超える問題が3問あり、課題といえます。
国語への関心等 ★国語について、「授業がよく分かる」の回答状況は、〈32.6％〉で全国と比較してほぼ同程度ですが、「好き」、「大切」の回答状況は〈17.4％〉、〈50.0％〉と課題があります。

算数A ☆数と計算〈68.1％〉、数量関係〈77.4％〉については比較的良好な状況です。

★量と測定〈55.8％〉、図形〈55.3％〉については課題があります。

算数B ☆図形に関する問題については比較的良好な状況です〈72.4％〉

★記述式の問題の無解答率が5問平均〈25.0％〉で全国と比較して大きく上回っており、課題ととらえております

算数への関心等 ☆算数について「好き」〈41.1％〉、「大切」〈75.0％〉、「授業がよく分かる」〈50.0％〉と回答した児童の割合がいずれも全国よりよい状況です。

3 質問紙調査結果〈本校の回答率〉

言語活動 ★普段の授業で、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると回答した割合は26.8％、自分の考えを発表する機会が与えられていると回答した割合は29.7％、で課題があります。

自尊感情 ☆自分にはよいところがあると回答した児童の割合は42.3％、将来の夢や目標を持っていると回答した割合は73.5％でいずれも全国より、よい状況です。

規範意識 ★人の役に立つ人間になりたいと回答した児童の割合は67.2％、学校のきまりを守っていると回答した割合は34.0％で課題があります。

学習習慣 ★家で学校の授業の予習、復習をしていると回答した割合は、7.7％、9.5％でいずれも改善の必要があります。

生活習慣 ★朝食を毎日食べている、毎日同じくらいの時刻に寝ている、起きていると回答した割合はそれぞれ79.6％、25.0％、51.0％で課題がある状況です。

学校生活 ☆学校で友達に会うのは楽しいと回答した割合は89.2％、学校に行くのが楽しいと回答した割合は59.4％でいずれも全国より、よい状況です。

4 今後の取組

（1）教科について

国語 教科の調査や国語に対する意識の状況ともに課題があり、改善が必要です。子どもの学習意欲を高める授業づくりに取り組み、「分かる」「好き」「大切」という意識において、今年度より5％以上向上できるよう努めます。

算数 学習意欲の面では、比較的良好な状況といえます。授業では、事例や方法、理由などを説明する学習を取り入れ、算数Bの記述問題の無解答率を今年度より5％以上改善できるよう努めます。
※授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動や授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れて、授業改善に努めます。

（2）児童生徒質問紙について

魅力的な学校づくりに引き続き努め、学校に行くことが楽しいと感じている児童をさらに増やします。子どもたちが主体となった授業づくりに努め、「授業で話し合う活動がよく行われている」「自分の考えを発表する機会が与えられている」と回答する児童の割合を5％以上向上させることをめざします。

教育委員会より

〇〇小学校では、児童が楽しく学校に通えるよう、わかりやすい授業づくりと教員と児童の信頼できる関係の構築に努めており、授業中に、わからないところを教員に聞きながら課題を解決している児童の姿を見てきました。また、現在取り組んでいる算数の授業研究により、職員の授業作りの工夫が、子どもたちの算数への関心の高さにつながっています。 〇〇区・教育担当

Ⅱ（５）結果報告書 調査毎の分析（取組重視）

平成 26 年 10 月〇日

保護者の皆様

川崎市立〇〇小学校

校長 〇〇 〇〇

平成 26 年度 全国学力・学習状況調査の結果の内容と 〇〇小学校における今後の取組について

H 頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

本年 4 月 22 日に 6 年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の本校の結果の内容を予校づくりを生かす視点から分析を行い、今後の学力向上の取組について報告いたします。

なお、本調査によって測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることが調査の実施要領にも示されております。したがって、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標とお考えいただきたいと存じます。

地域・保護者の皆様には、本調査の趣旨をご理解いただき、ご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

1. 調査結果の内容

※○は概ね満足できる状況と考えられる内容、●は改善を必要とする状況と考えられる内容

※本資料で示している数値は、質問紙調査の各設問の「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(1) 学習についての内容

○「国語の勉強は大切だと思いますか」

94.3%

「国語の授業で学習したことは、

将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」

88.5%

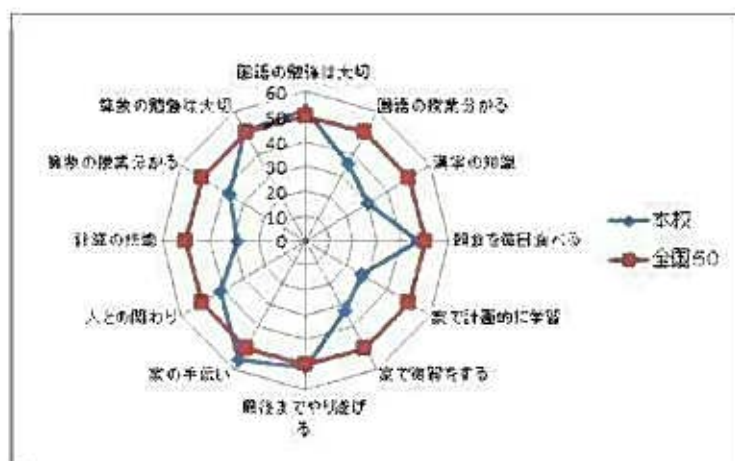
○「算数の勉強は大切だと思いますか」

94.1%

「算数の授業で学習したことは、

将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」

88.6%



※全国結果を50とし、それに対する本校の結果を矢印としています。

●「家で、学校の復習をしていますか」 34.1%

●「国語の授業の内容はよく分かりますか」 64.8%

「算数の授業の内容はよく分かりますか」 66.8%

●漢字を正しく読んだり、書いたりする設問についての平均正答率 47.5%

ことわざや慣用語の意味と使い方の理解に関する設問についての平均正答率 67.5%

●計算の技能の習得に関する設問の平均正答率 63.8%

国語や算数への興味・関心についての設問に対して、肯定的に答える児童が多く、学習することを大切に与え、学習への意識が高い児童が多い状況です。しかしながら、基礎的・基本的な知識・技能の定着が不十分であるために、授業の内容が分からない、と答える児童がいる状況です。

(2) 自分や生活習慣についての内容

- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」 96.0%
- 「家の手伝いをしていますか」 86.5%
- 「朝食を毎日食べていますか」などの生活習慣に関連する設問に対して、マイナスの傾向で答える児童の割合が、全国に比べて高い傾向にあります。
- 「学校の決まりを守っていますか」、「挨拶をしていますか」、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」という人との関わりに関連する設問に対して、「当てはまる」と答える児童が全国に比べて低い傾向にあります。

自己肯定感が高く、家庭でのコミュニケーションを大切にし、お手伝いなどを行っている児童の割合は多くなっています。しかしながら、基本的な生活習慣が身に付いておらず、規範意識が低い児童の割合は多くなっています。

2. 今後の学力向上に向けた取組について

(1) 全児童が「分かった」と実感できる授業を目指して

①基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けた取組

- ・朝の帯タイムに、漢字チャレンジタイムと計算チャレンジタイムを位置づけて全校一斉に取り組み、繰り返し学習することで基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
- ・給食の準備時間や昼休み、放課後等の時間を利用して、少人数担当教諭が基礎的・基本的な知識・技能の定着に向け学習をサポートします。
- ・家庭学習を計画的に行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着につながるように「家庭学習スタイル」を作成しました。計画を立て、学習に取り組み、自己評価し提出するようになっております。学校では提出物に口を通し、取組状況に合わせて褒めたり励ましたりしていきますので、ご家庭でもお子さんと一緒に計画を立てたり、アドバイス等をしていただけるようお願いいたします。

＊以上の取組を推進することにより、漢字に関する正答率 50%を目指します。

②子どもたちが「楽しい」「分かった」と実感できるような授業改善に向けた取組

- ・「子どもたちが自ら考える」「自分の考えを表現する」「友だちと考えを出し合い、学び合う」授業を目指して、研修や授業研究を通して取り組んでまいります。

全国学力・学習状況調査報告書「クロス集計」では、学力は学習意欲、自尊感情、規範意識、生活習慣や人とののかかわりに対する意識と関連があることが示されています。引き続き、楽しい学校づくりに努め、様々な活動を通して自尊感情や規範意識が高まるような指導に努めます。また、保護者や地域の方との連携を取りながら、生活習慣や人とののかかわりに対する意識の改善を図ってまいります。

＊以上の取組を推進することにより、「授業が分かる」と答える児童を 70%にすることを目指します。

教育委員会より

日ごろより、〇〇小学校では、学校行事などの運営に児童の自主活動を取り入れており、児童が生き生きと活動する姿を拝見しております。学校や学年の行事に積極的に取り組むことが、子どもたちの成功体験へとつながり、自尊感情がはぐくまれているものと考えております。

〇〇区・教育担当

Ⅱ（６）結果報告書 学校教育目標等に即した分析（授業改善重視）

平成 26 年 10 月〇日

保護者の皆様

川崎市立〇〇中学校

校長 〇〇 〇〇

平成 26 年度 全国学力・学習状況調査の結果の概要と 〇〇中学校における今後の取組について

口頭より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

本年 4 月 22 日に 3 年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の調査結果につきまして、本校の学校教育目標ならびに学校経営方針を踏まえ、学校づくりに生かす視点から分析を行い、今後の取組について報告いたします。

なお、本調査によって測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一面面であることが調査の実施要領にも示されております。したがって、本資料は、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標とお考えいただきたいと存じます。

地域・保護者の皆様には、本調査の趣旨をご理解いただき、ご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

1. 調査結果の概要

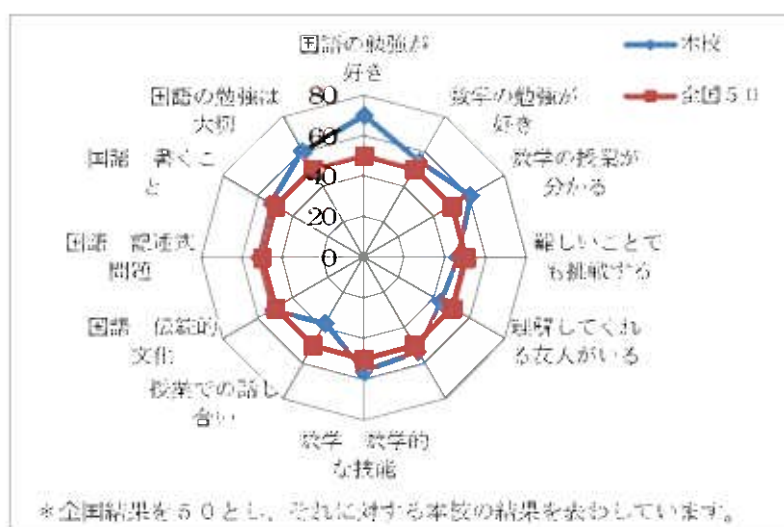
生徒質問紙調査から、「最後まであきらめずに解答を書こうとした」、「国語や数学の勉強が大切である」などの設問に対して、肯定的な回答をする生徒が多く、本校の多くの生徒が学習に意欲を持っていることが分かります。これは、本校のめざす生徒像である『意欲的に学び、豊かな心と正しい判断力・実践力を身につけた生徒』を実現しているものと考えます。

また、国語では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」などについて、数学では「数と式」、「図形」についての正答率が高く、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている生徒が多いことが分かります。これは、本校の経営目標の一つである『確かな学力を身に付ける教育の推進』が効果を上げていることがうかがえます。

2. 学校教育目標等の実現に向けた調査結果を生かした今後の取組

※○は既に満足できる状況と考えられる内容、●は改善を必要とする状況と考えられる内容

※本資料で示している数値は、質問紙調査の各設問の「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計



(1) 学校教育目標「自ら学び、考え、進んで行動する人」の実現について

<生徒質問紙調査の状況>

- 「教科が好きである」、「勉強が大切である」などの「学習意欲」に関する設問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合の平均は **75.3%**であり、良い状況ととらえております。
- 「国語の授業の内容がよく分かる」、「数学の授業の内容がよく分かる」の設問に対して肯定的に答えた生徒はそれぞれ、**84.1%**、**83%**であり、どちらも全国よりもよい状況にあります。
- 「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦する」と回答した生徒は **61.1%**で、全国に比較して課題がある状況です。
- 「自分の考えや気持ちを理解してくれる友人がいますか」という設問に対して、**81%**の生徒が肯定的な回答をしていますが、全国に比較して課題がある状況です。

<分析と今後の取組>

「授業が分かる」と感じ、意欲的に学習に向かっている生徒が多いことがうかがえます。今後、生徒が豊かな人間関係を築き、一層、自信を持って授業に取り組むことができるよう、自己有用感を高めていきたいと考えています。

また、生徒がより意欲的に学習にのぞめるよう授業改善を推進し、「学習意欲」に関する設問の平均数値が **75%**になるよう、めざしていききたいと考えています。

(2) 学校経営目標「確かな学力を身につける教育の推進」について

<教科調査の状況>

- 国語 ○「自分の考えを書く」「説明する」などの記述式問題の正答率は、**50.1%**ですが、全国より、よい状況にあります。
 - 国語の「漢字の楷書と行書の違いを理解して書くこと」や「歴史的かなづかい」に関する問題については、課題がある状況です。
- 数学 ○数学の活用の問題では、「教と式」の領域で平均正答率が **46.3%**で、全国より良い状況にあります。
 - 数学 A「主として知識」の正答率 **30%**以下の生徒が約 **20%**おり、課題がある状況です。

<質問紙調査の内容>

- 「授業の中で、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていますか」という質問に対して、**57.5%**の生徒が肯定的な回答をしており、全国より、よい状況にあります。
- 「授業で話し合う活動をよく行っている」、「調べる活動を行っている」という質問に対して否定的に答える生徒の割合は **43.5%**であり、全国に比べて課題のある状況です。

<分析と今後の取組>

話し合い活動を授業に取り入れて言語活動の充実を図り、「わかる授業」を推進することで、数学 A「主として知識」の正答率 **30%**以下の生徒を **10%**にしていきたいと考えています。

教育委員会より

日ごろより、〇〇中学校の生徒が学級活動や行事などに自主的に取り組み、積極的に授業に取り組んでいる様子を拝見しております。授業の導入や課題の提示方法を工夫するなどして生徒の関心意欲を高め、一人ひとりに応じた学習支援が学力向上につながっていると考えております。

〇〇区・教育担当

Ⅲ 個人票の取扱いについて

児童生徒一人一人の学力向上につながるよう、調査結果をもとに学習方法の改善等について児童生徒・保護者と共通理解を図るために活用する。

個人票のイメージと学力向上につなげるアドバイスのポイント

全体的な出題の意図が書かれています。国語Aは基礎・基本的な問題です。

正答数ごとの児童の割合の全国
の状況です。自分の位置を確認
できます。

全国学力・学習状況調査【小学校】

国語A

●出題内容
国語では、「読むこと・書くこと」、「聞くこと」、「話すこと」、「読解的な言語文化と語彙の増進に関する事項」に関する内容について学習します。
国語Aは、基礎的・基本的な問題です。学習した内容であるので、しっかりと身に付けるようにしましょう。

●全問の正答率（正答数ごとの児童の割合）

問題番号	問題内容	正答数	正答率	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
1	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
2	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
3	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
4	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
5	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
6	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
7	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
8	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
9	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
10	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
11	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
12	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
13	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
14	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
15	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
16	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
17	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
18	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
19	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
20	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
21	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
22	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
23	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
24	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z
25	国語A	10	10.0%	国語A	国語B	国語C	国語D	国語E	国語F	国語G	国語H	国語I	国語J	国語K	国語L	国語M	国語N	国語O	国語P	国語Q	国語R	国語S	国語T	国語U	国語V	国語W	国語X	国語Y	国語Z

各問の内容が書かれています。自分の苦手な部分が把握できます。

各問の結果（○正答、×誤答、—無解答）が示されています。

全国の正答率です。数値が低いほど、難しかった問題ともいえます。

正答数の見方
*問題の形式ごとの正答数、問題の領域ごとの正答数が示されています。自分の得意分野や苦手分野が把握できます。

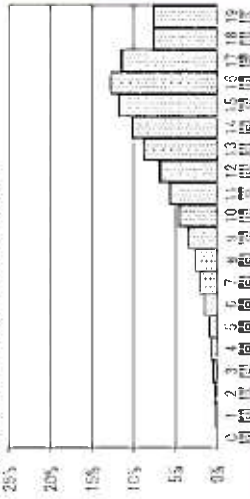
[illegible]

算数A

「驚と制訂」、「驚と制訂」、『驚と制訂』
「驚と制訂」に於ける内容について学習します。
驚と制訂は、学問した内容のうち、しっかりと身に
付けておいてほしい重要な・基本的なものをみ
る。

東山館出版

●全王の状況（正筆数と正筆の割合）



一、

問題番号	問題の内容	答	算式	図形	問題形式	解説	全問の正答率
(1)	132+459を計算する	3	★		短答	—	95.8
(2)	148÷37を計算する	4	★		短答	○	94.4
(3)	4.6-0.21を計算する	4	★		短答	×	93.5
(4)	90×0.7を計算する	5	★		短答	—	90.8
(5)	6×2+8×3を計算する	4		★	短答	○	88.3
(6)	$\frac{3}{7} - \frac{2}{5}$ を計算する	5	★		短答	×	85.9
(7)	$\frac{4}{5} \div 8$ を計算する	5	★		短答	—	82.0
(8)	47000は1000が何個含まれた数を書く	4	★		短答	○	89.4
(9)	596の $\frac{1}{100}$ の大きさを小数で書く	5	★		短答	×	73.8
(10)	120cmの糸が1テープの長さが0.6倍に当たるとき、2つのテープの赤いテープの長さを表している図を書く	5	★		選択	—	34.3
(11)	120cmの赤いテープの長さが1テープの長さの0.6倍に当たるとき、1テープの長さを求める式を書く	5	★		短答	○	41.3
(12)	5日間1日に平均何個のトマトがとれたことになるのかを書く	5		★	短答	×	87.1
(13)	示されたばかりの玉箱は何個かを書け	4		★	選択	—	69.7
(14)	三角形の底辺に対応する高さを求める	5		★	選択	○	51.9
(15)	三つの角の大きさが60°、90°、90°である四角形の、残りの角の大きさを求める	5		★	短答	×	77.2
(16)	立方体において、与えられた面に垂直な辺を書く	4		★	短答	—	85.9
(17)	示された半円多角のために、コンパスの動きをきき場所と、コンパスの開いていく幅とを答える	3		★	短答	○	75.5
(18)	犬を飼っている8人が学校全体の人数の25%に当たるとき、学校全体の人数を求める式と答えを書く	5		★	短答	×	53.7
(19)	立方体の縦と横の長さを記入し、縦を2倍、3倍、4倍にすると、体積はどのように変わるかを答える	5		★	選択	—	85.9

「わが国の女子学生とは、健康に問題なく、よく十年を歩いたものである。」

References

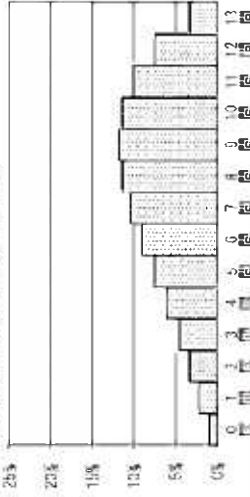
B 算数

● 区域与王

算教日は、学習した内容を使って、身の回りの場面を観察したり、いろいろな場合を調べたり、式やグラフなどが表している内容を読み取ったり、疑問を立てて考えたりする問題です。

これまでに学習した内容を見直し以外の学習や生活の
中でも活用できるようにしよう。

● 日本国と「経済の巨人」の対決 ●



한

問題番号	問題の内容	解答方法	三つ判定	図形	数値関係	問題形式	特性	全問の正答率
1	(1) 代金320円に対して520円をはさったとき、おつりとしてもらった2枚の硬貨の種類を書く (2) 代金630円に対して、1030円よりも130円をはらったとき、おつりの硬貨の枚数が少なくなるわけを書く	★	★			短答	○	42.7
2	(1) 中型のとび箱を8段にしたときの高さ求める式を書く (2) 中型のとび箱を70cmの高さにすることができるとかを判断し、そのわけを書く (3) 2種類のとび箱ををりて高くすると同じ高さになるわけとして、正しい記述を選ぶ	★	★	★	★	記述	○	27.0
3	(1) 縦6cm、横10cmの長方形の中にかかれたひし形の面積を求める式を書く (2) 面積が等しい直角三角形をしとして、長方形の中にかかれた四角形の面積と長方形の面積の関係を書く	★	★	★	★	短答	×	46.3
4	(1) 午前11時30分までにごはんが出来上がるようにするために、かかる時間40分間をもとにして、ごはんに点火する時刻を求める (2) 40分間以内でできることを判断するために、かかる時間の整理から最もふさわしい数字の組み合わせを書く	★	★	★	★	短答	×	81.5
5	(1) はかりの目もりと1人分の材料と分量をもとにして、別の人数分のごはんを作るために必要な水の量と茶碗とを書く (2) 一般車の高さを選んだとき、示された長さを求める (3) 一輪車のタイヤの回転数と通んだ道すがら比例の関係にあることをもとにして、トラック1周の高さを求めるを書く	★	★	★	★	記述	○	34.2
6	(1) 一般車の高さを選んだとき、示された長さを求める (2) 一輪車のタイヤの回転数と通んだ道すがら比例の関係にあることをもとにして、トラック1周の高さを求めるを書く (3) ふさされた道から、全員の人数をもとにした乗れる人数の割合は、男子と女子ではどちらのほうが大きいかを判断し、そのわけを書く	★	★	★	★	短答	×	64.3
7	(1) はかりの目もりと1人分の材料と分量をもとにして、別の人数分のごはんを作るために必要な水の量と茶碗とを書く (2) 一般車の高さを選んだとき、示された長さを求める (3) 一輪車のタイヤの回転数と通んだ道すがら比例の関係にあることをもとにして、トラック1周の高さを求めるを書く	★	★	★	★	選択	—	61.3
8	(1) はかりの目もりと1人分の材料と分量をもとにして、別の人数分のごはんを作るために必要な水の量と茶碗とを書く (2) 一般車の高さを選んだとき、示された長さを求める (3) 一輪車のタイヤの回転数と通んだ道すがら比例の関係にあることをもとにして、トラック1周の高さを求めるを書く	★	★	★	★	記述	○	43.8

55

運送

Figure 1

2018

39/

100

22. 01/



부하

問 1 3 問

× 範圍 ×

Ⅳ わかる授業の取組

1 平成25年度児童生徒質問紙「授業がよく分かりますか」の本市および全国の調査結果

小学校				中学校			
	1	2	合計		1	2	合計
国語 川崎	34.6	45.6	80.2	国語 川崎	22.0	51.2	73.2
国語 全国	33.3	46.6	79.9	国語 全国	22.3	49.6	71.9
算数 川崎	45.5	33.4	78.9	数学 川崎	30.8	38.5	69.3
算数 全国	45.2	35.0	80.2	数学 全国	31.7	38.8	70.5

(1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる)

2 各校での分析の仕方

全国と川崎市の結果から各校の分析を下記のように設定

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が

●小学校

8.5%以上—よい状況 7.5～8.5%—全国の状況と同程度 7.5%未満—改善を要する状況

●中学校

7.5%以上—よい状況 6.5～7.5%—全国の状況と同程度 6.5%未満—改善を要する状況

3 児童生徒が「分かる」を実感できる授業づくりに向けて

児童生徒に身に付けさせたい力・・・着目していく児童生徒質問紙調査の設問

国語では

- 目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりすることができる。
- 意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫することができる。
- 自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書くことができる。
- 文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読むことができる。

算数・数学では

- 解き方が分からないとき、諦めずにいろいろな方法を考えることができる。
- 学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考えることができる。
- 問題を解くとき、もっと簡単に説く方法はないかを考えることができる。
- 公式や決まりを習うとき、そのわけや根拠を理解しようとすることができる。
- 問題の解き方や考え方が分かるようにノートにまとめることができる。

① これらの力を身に付けるために学校として取り組むこと・・・着目していく学校質問紙調査の設問

国語に関する質問から

- 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業
- 書く習慣を付ける授業
- さまざまな文章を読む習慣を付ける授業
- 漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業

算数・数学に関する質問から

- 実生活における事象との関連を図った授業
- 計算問題などの反復練習をする授業

学校全体で取り組める内容として・・・着目していく学校質問紙調査の設問

- 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れる。
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れる。
- 「朝の読書」など「読書の時間」を設定する。
- 学校図書館を活用した授業を計画的に実施する。
- 放課後・土曜日・長期休業等を利用した補充的な学習サポートを実施する。
- 本やインターネットを使って調べる活動を単元の学習の中に位置づける。
- お互いが自分の考えを発表する機会を授業に位置づける。
- 学級の友達との間で話し合う活動を日常的に行う。
- 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことに慣れさせる。
- 自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることに慣れさせる。

4 どのように分析し目標設定をするか

○「授業の内容が分かりますか」に対する回答状況が比較的好かった場合

- ① 「身に付けさせたい力」で比較的低い項目があれば、それを取り上げて
→「分かると回答した割合が●%と比較的良好な状況にあります。子ども達がより一層自信をもって学習に取り組めるように○○の力を伸ばすように授業改善に取り組みます。」
- ② 「学校として取り組むこと」で校内研究等の重点を置いている取組に近い項目があれば
→「分かると回答した割合が●%と比較的良好な状況にあります。～をテーマに取り組んできた校内研究の成果が現れてきたものと受け止めています。今後も一人でも多くの子どもが『授業の内容が分かる』と回答できるように、《研究主題等に触れながら》一人一人に目を向けたきめの細かい指導を心がけてまいります。」
- ③ 回答状況は比較的好かったが、学校としてさらに伸ばしたいところがある場合は
→「分かると回答した割合が●%と比較的良好な状況がありますが、教職員は○○の力が伸びてくるとより一層、思考力や表現力を伸ばすことができると分析しています。今後は～」

▲「授業の内容が分かりますか」に対する回答状況が比較的好くなかった場合

- ① 「身に付けさせたい力」で課題となっている項目を1～2取り上げて
→「分かると回答した割合が●%であり、学校として改善を図るべき課題だととらえています。一人一人が分かる楽しさを味わいながら学習に取り組むことが意欲の向上にもつながると考えております。○○の力や○○の力をしっかりと身に付けられるような授業を工夫していきたいと考えています。」
- ② 「学校として取り組むこと」で課題となっている項目を1～2取り上げて
→「分かると回答した割合が●%であり、学校として改善を図るべき課題だととらえています。一人一人が自分の考えをもち、意欲的に学習に取り組むことを目指して、授業の中に□□の活動をしっかりと位置づけ、○○の力を伸ばすように授業を工夫してまいります。」

※ここで示した「○○の力」は、児童生徒質問紙の内容から取り上げた「身に付けさせたい力」の項目の中で調査結果から課題が見られる項目や、日常の教育活動を通して教員が課題と感じていることを取り上げることを想定している。

補足 は児童生徒質問紙の設問。この設問に対する回答状況を分析し、課題が認められれば、◎で示した授業改善策を今後の取組として示すことが考えられる

算数・数学の問題の解き方が分からないとき、諦めずにいろいろな方法を考える

◎児童生徒の様々な考えを引き出したり思考を深めたりするような発問や指導を工夫する。

普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う

◎児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進める。

算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている

◎学習方法(適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど)に関する指導を行う。

普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う

◎学級全体で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを工夫して授業に取り入れる。

普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う

◎授業の中に学級やグループで話し合う活動を日常的に取り入れる。

普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思う

◎本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くように指導を工夫する。

普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う

◎単元の学習の中に資料を使って発表する機会を位置づける。

400字詰め解答用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい

◎自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書く活動を日常的に取り入れる。

※調査結果を分析する際に、教員の見立てと児童生徒の回答状況に開きが見られる場合

○要因として、考えられるのは

- ①調査の回答者と実際に児童生徒を指導している教員との間に認識のずれがある場合
(学校質問紙に校長・他教科の担当者・学年主任(教科主任)等が代表して回答している)
- ②教員は取り組んでいるが、児童生徒には認識されていない場合
(時間をかければ伝わるものか、取組の成果を児童生徒が実感できているかを検討する)
- ③児童生徒は努力していると考えているが、教員(回答者)には認識されていない場合
(調査結果の分析を機に、児童生徒の見取り方が適切であるかどうかを検討する)

※ 調査結果の分析に当たっては、結果の数字だけを取り上げるのではなく、なぜこのような結果になったのか、児童生徒はどのような思いで設問に解答していたのかについて日常の活動への取り組み状況等も考慮しながら検討することで、児童生徒を共感的に理解することにつながります。

このような分析を全教職員で共有し、それぞれの教科・学年に応じた授業改善への取組を具体的に・組織的に行うことが、学校全体で“わかる授業”づくりに取り組むことにつながります。

参考 川崎市学習状況調査について

1 調査の目的

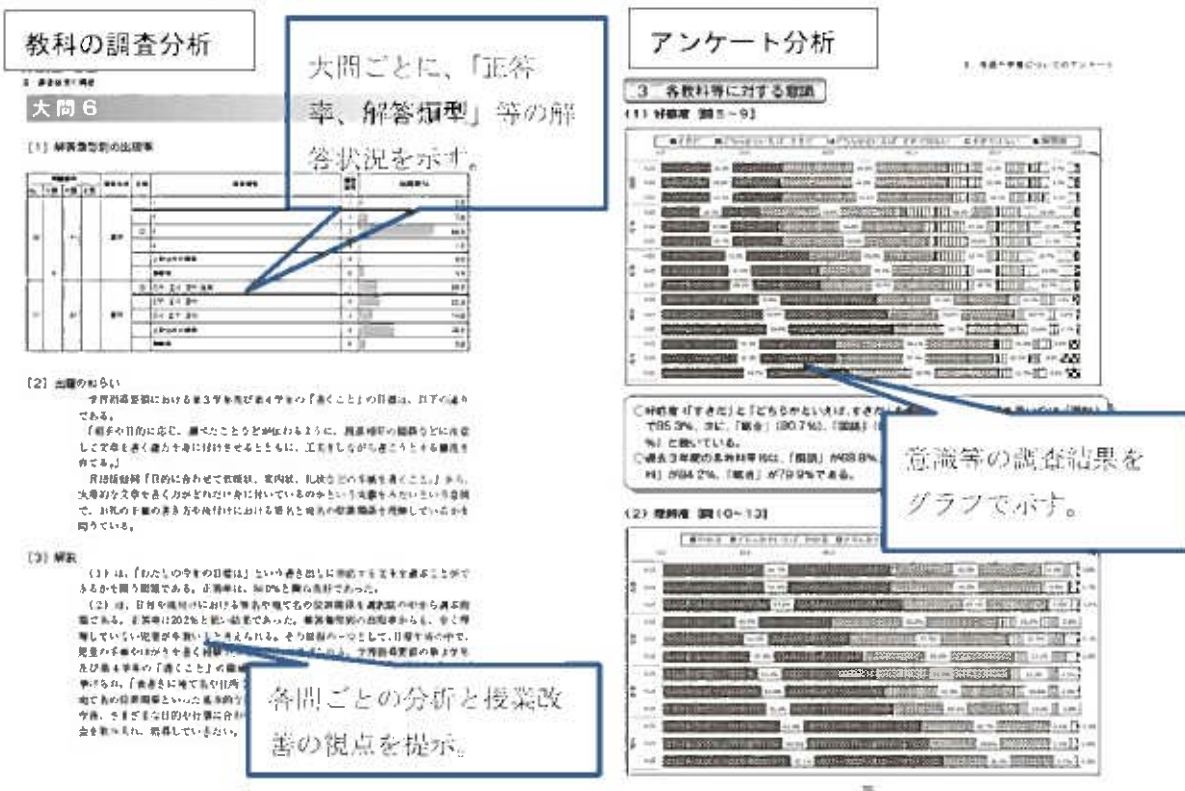
全市的な規模で児童生徒の学習状況を調査することにより、学習指導上の課題を明らかにする。その結果を、各学校においては、今後の学習指導法の改善や教育課程編成の工夫等、児童生徒の基礎学力の向上に役立てる。

2 調査の内容等

- | | | |
|---------------------|--------|-----------------------------------|
| (1) 調査対象 | 小学校5年生 | (平成 25 年度 調査対象人数 約 11,400 人) |
| | 中学校2年生 | (平成 25 年度 調査対象人数 約 8,800 人) |
| (2) 調査内容 | 小学校 | 国語、算数の調査、生活や学習についてのアンケート |
| | 中学校 | 国語、社会、数学、理科、英語の調査、生活や学習についてのアンケート |
| (3) 実施日 | 小学校 | 5月上旬・・・平成 26 年度 5月13日(火) |
| | 中学校 | 11月上旬・・・平成 26 年度 11月11日(火) |
| (4) 各学校のデータ及び個人票の提供 | 小学校 | 夏休み前(7月中旬) |
| | 中学校 | 冬休み前(12月下旬) |

3 学習状況調査報告書について

各学校の日頃の指導の改善に生かすよう、報告書を作成し各学校に配布する。

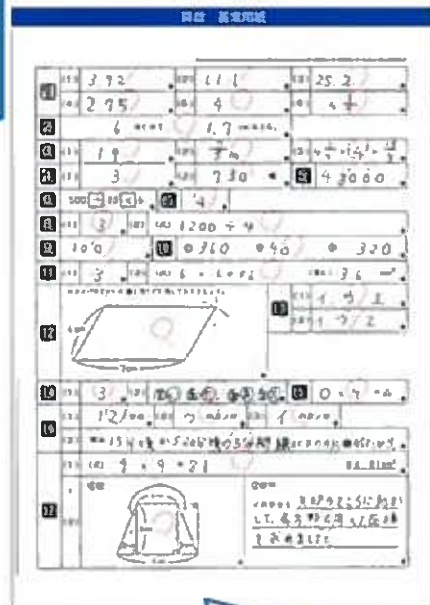


■小問別正誤表

各小問の正誤状況は「○」正答 「●」誤答 「—」無回答を表しています。

大問	小問	問題の内容	領域	観点	正誤	川崎市正答率(%)
1	(1)	小数第二位までの小数の加法ができる	A	②	●	73.1
	(2)	小数第二位までの小数の減法ができる	A	②	●	59.5
	(3)	(小数) × (1けた) の乗法ができる	A	②	○	86.4
	(4)	(整数) ÷ (整数) のわりこみ除法ができる	A	②	○	64.4
	(5)	四則混合計算ができる	D		○	81.7
	(6)	率分数を含む同分母分数の加法ができる		②	○	73.0

川崎市の状況がひと目で分かりやすくなっている。



個人票には、採点された本人の答案用紙がスキャンされ、状況が確認できる。

● 個人別グラフ

個人	正答数	正答率
A	12	80.0%
B	5	83.3%
C	4	80.0%
D	9	88.9%

● 領域別グラフ

「領域ごと」「観点ごと」の自分の正答数と市全体の状況とを比べることができる。

川崎市状況と個人の状況が比較しやすい。

■領域別分析

領域名	あなたの正答数	小問数	平均正答数	正答率
A 数と計算	12	14	9.4	
B 量と測定	5	6	3.6	
C 図形	4	5	3.3	
D 数量関係	9	9	5.8	

意識調査

■ 意識調査

質問 項目	回答率
学校生活は、楽しいですか。	
楽しい	61.7
どちらかといえば、楽しい	31.6
どちらかといえば、楽しくない	4.8
楽しくない	1.8
無回答	0.1
勉強をすることは、大切なことだと思いますか。	
大切だ	78.6
どちらかといえば、大切だ	19.5
どちらかといえば、大切ではない	1.3
大切ではない	0.5
無回答	0.1
勉強をする一番の理由は何ですか。	
わからないうから	21.9
受験に役に立つから	11.5
将来の仕事に役に立つから	42.2
生活するのに役に立つから	19.0
ほめてもらえるから	2.0
家の人やまわりの人にいわれるから	2.8
無回答	0.6
学校のある日、家で1日どのくらい勉強しますか。	
3時間以上	8.4
2時間以上、3時間より少ない	11.5
1時間以上、2時間より少ない	24.3
30分以上、1時間より少ない	31.2
30分未満	19.6
まったくしない	4.3
無回答	0.6
ふだん、家でしている勉強は、どれに近いですか。	
宿題のほかにも毎日勉強する	40.1
宿題のほかにもときどき勉強する	40.5
宿題だけ勉強する	16.2
宿題があってもあまり勉強しない	2.5
無回答	0.5

質問 項目	回答率
学校がある日の、睡眠時間はどのくらいですか。	
10時間以上	11.4
9時間以上、10時間より少ない	33.4
8時間以上、9時間より少ない	30.3
7時間以上、8時間より少ない	14.4
6時間以上、7時間より少ない	6.5
6時間より少ない	2.6
無回答	1.3
毎日、朝食を食えますか。	
必ず食える	82.1
たいてい食える	13.6
食べないことが多い	3.1
食べない	0.6
無回答	0.6
学校に持っていくものは、前日にきちんと用意しますか。	
用意する	57.9
どちらかといえば、用意する	31.0
どちらかといえば、用意しない	8.0
用意しない	2.9
無回答	0.2
学校のある日、家でどのくらいテレビやビデオを見たり、ゲーム機で遊んだりしていますか。	
3時間以上	19.2
2時間以上、3時間より少ない	19.3
1時間以上、2時間より少ない	26.5
30分以上、1時間より少ない	18.7
30分未満	10.9
まったくしない	5.0
無回答	0.4
月に何冊ぐらい本（マンガ・雑誌をのぞく）を読みますか。	
川崎市平均	5.7
あなたの回答	5

各設問に対し、川崎市全体の解答の割合を%で示しています。
あなたの解答は網掛け部分に含まれています。

「生活や学習のアンケート」については、本人が回答した部分に色がついている。

この個人票をもとに、日頃の学習について振り返り、学習方法の改善等について、教員、児童生徒、保護者で考えていく。